［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月16日

【評価実施概要】

事業所番号	３７７０１０３３２７
法人名	医療法人社団まえだ整形外科外科医院
事業所名	グループホームすずらん
所在地	香川県高松市伏石町２００８番地５ （電　話）087－868－8828

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成２１年２月２０日	評価決定日	平成２１年３月１６日

【情報提供票より】（21年1月15日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・平成　16 年9月1日	
ユニット数	2ユニット	利用定員数計　18人
職員数	17人	常勤　14人，非常勤　3人，常勤換算　15．65人

（2）建物概要

建物構造	RC造り
	5階建ての2階～3階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	39，000円		その他の経費（月額）	共益費21，000円
敷　　金	有（　　円）		無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　　円） 無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	326円	昼食	441円
	夕食	651円	おやつ	円
	または1日当たり　1，418　円			

（4）利用者の概要（　1月15日現在）

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	0名		要介護2	1名	
要介護3	13名		要介護4	1名	
要介護5	3名		要支援2	0名	
年齢　平均	84歳	最低	73歳	最高	97歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	広瀬病院　荒木内科医院　石丸歯科医院　香川県済生会病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所はサンフラワー通りを北に入った街中にあり、鉄筋5階建て高齢者施設の2～3階であり、趣のある明るい施設である。利用者は近隣の方が多く、住み慣れた地域で安心して暮らせるように、職員は外出支援を積極的に行っている。地域の方との交流は建物内の他のサービスも取り入れた支援が工夫されている。かかりつけ医との連携や看護職の健康管理は家族や利用者の信頼を得ている。職員は理念をいつも念頭において、一人ひとりの思いやできることを大切にし、利用者がゆったりと自分らしく過ごせるように質の高いサービスの提供に努めており、今後、さらにサービスの向上が期待できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前回の評価後は、理念を職員で話し合い共有し、各ユニットごとに具体的な理念をつくり、日々の支援の中で実践に活かしている。地域との付き合いは今年の取り組み課題としており、運営推進会議での情報を取り入れたり、事業所便りを地域へ配布し、関係機関へ出向いて説明を継続している。また、職員が地域の行事参加の機会を増やせるよう検討中である。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

職員全員で話し合いをして自己評価に取り組み、管理者がまとめている。ミーティングでは課題を討議して、解決のための過程を共有するなど全員で協議して取り組んでいる。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

運営推進会議は、市議会議員、民生委員、家族、市職員などで2～3か月ごとに開催され、事業所の利用状況、行事、事業所の取り組みと課題などの報告をし理解と協力は得られてきている。事業所へ求められる支援のあり方、地域からの支援などが運営推進会議で具体的に協議し、委員の意見や情報と協力を得て生活が支えられる支援ができるよう、さらに期待したい。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

毎月の家族への連絡時に、利用者の生活状況やすずらん便りなどで報告し、苦情・相談など窓口の案内も毎回してる。面会時には管理者や計画作成担当者も必ず家族の意見や思いの把握に努め、得られた情報はノートや引き継ぎで職員間で共有・周知して、迅速な対応に努めている。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

イベント時には、施設を開放したり、関連施設に来ている地域の方との交流を続けており、地域の行事へ参加、事業所の行事への協力・参加などが少しづつ広がってきている。また、毎日の施設の前を通学する子供への声かけや、ボランティアの受け入れの推進に加えて、防火訓練へ地域からの参加、災害時の地域との協力の話し合いなど、さらに多方面での取り組みが期待される。

2.　評 価 結 果（詳細）

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
１．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念の上に、職員で話し合って地域密着型施設としての具体的な理念をつくっている。家庭的な環境で、その人らしさを大切に、一人ひとりに寄り添い、望む暮らしと地域社会との交流を保ち、馴染みの関係づくりができるよう支援に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は毎朝の引き継ぎ時に唱和し理念を確認し、日々の支援の中での意見交換やミーティングを重ねて実践に取り組んでいる。		
２．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者の散歩や買い物で挨拶するなど地域とのつながりが広がるよう努めている。イベントの開催時には地域の人達へチラシを配り、参加してもらったり、ボランティアの受け入れなど交流を広げているが、日常の付き合いを増やし関わりが深まるまでには至っていない。	○	地域の方が気軽に立ち寄れるように、ホームの入り口の表示を明確にして、日常の付き合いを増やし関わりが深まるよう期待する。また、事業所が地域の高齢者支援の専門家としての相談・支援の役割を果たせるような取り組みに期待する。
３．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が話合いをして、意見を出し合って自己評価に取り組み、内容を共有できている。さらに、評価のねらい・課題などはミーティングの中で継続して取り組み、職員は支援の質の向上を意識している。	○	評価の時だけでなく、一年間を通して、定例のミーティングで計画的に評価項目を順次取り上げていき、評価の狙いや活用方法を確認するなど、具体的な介護の支援につながり、さらにサービスの質の向上が望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2～3か月ごとに開催されており、家族、市会議員、民生委員、高松市担当者、包括支援センターからの委員で構成され、積極的な話し合いがあり、委員の協力は得られている。事業所の取り組みの状況、支援状況、行事報告、情報交換や話し合いは行っているが、十分にサービス向上に活かされることが望まれる。	○	今回の自己評価の内容、外部評価の結果を説明し、事業所の取り組んでいることや改善していきたいことについて質問・意見・要望をいただき、双方向的な会議となるよう配慮が望まれる。改善経過の報告も具体的な話し合いを一つずつ積み上げていき、サービスの向上に活かされることが望まれる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議での助言と指導をサービスの質の向上に活かしており、常に指導を受けたり、運営のアドバイスや情報交換できる関係づくりに努めている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、担当者から利用者の健康状態や生活の様子を記述し、写真や小遣いの使用明細などを添えて報告し、2か月ごとに発行する「すすらん便り」でも生活状況を報告できている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受け付けについては、家族によく説明しており、運営推進会議の家族の意見や、面会時や連絡時に把握し、把握した情報は職員全員が共有するよう努めている。今のところ「苦情BOX」には特に苦情は出ていない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	いつもの顔馴染みの介護スタッフでの支援をモットーとし、法人の中でのやむを得ない異動の時も、職員の異動は最小限に努めている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人は、職員育成の重要性を認識しており、毎月、定例の法人の研修会・ホームの勉強会・カンファレンスなどで、職員の介護の質の向上に努めている。さらに、毎日、職員が業務を振り返り、気づきと反省を書いて提出し、自ら介護の向上につながるよう支援する体制ができている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員の交流、情報交換の機会が少なく、施設外研修に参加した時に情報交換することが多い。地域の同業者との交流や勉強会などの機会は少ない。	○	他の市にある同じ法人のホームや、研修などで知り合った施設、地域の同業者などとの相互訪問や交流の機会をつくり、勉強会や合同研修などで、サービスの質向上させていく取り組みに期待する。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前にホーム見学などで安心し、納得しながらサービスを利用できるように段階的な支援の工夫ができている。利用者の状況に合わせて、馴染みの関係ができるまでは自由な利用時間や生活習慣に合わせた時間配分で繰り返し対応し、安心して暮らせるように家族と連携しながら柔軟に対応している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の思いを共感し、理解して十分に受け止めるよう努めている。人生の先輩として尊敬し、個別性を尊重して生活の喜怒哀楽を共にし、支え合える関係づくりをモットーに取り組んでいる様子がうかがえる。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしくを基本に、利用者の居場所をつくるように心がけており、利用者からの希望、意向の聴取や家族からの情報を把握し、定例のミーティングや引き継ぎ時、職員間の話し合いで共有・周知し、利用者本意の対応に努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の意見や希望を反映した介護計画書に取り組み、職員全体でモニタリング、カンファレンスを行い、日常の支援について可能な限り利用者主体の介護計画を話し合っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直しが行えており、日々のケアで気づいたことはすぐ話し合いができている。利用者の状況変化時には家族・医療関係者などと話し合って随時の介護計画の見直しもできている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の状況や要望に応じて、法人の機能を十分に活かし、デイサービスの喫茶利用、行事参加、身体機能維持機器利用などの参加を工夫している。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の関係を大切に保ち、通院については原則家族が行い、やむを得ない時は家族と相談した受診支援ができている。また、協力病院の定期往診もあり、受診結果についても利用者と家族と情報の共有にも努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現時点では対象者はないが、利用初期の段階で利用者と家族の希望を受け止め、可能な限りの支援をするが、重症処置が必要になったら、支援ができない方針であることを職員が共有している。家族・利用者の希望を受け入れられるよう、対応について話し合いを続けている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員全員に、研修や日々の連絡・業務上の指導などで周知に努めている。書類やメモなどの取り扱いに気をつけ、利用者一人ひとりを大切にし、誇りやプライバシーを意識し声かけやトイレ誘導などの対応がうかがえた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な生活の流れはあるが、利用者の意向や生活リズムに沿うように支援している。食事やレクリエーション時は利用者に声をかけてから支援ができており、利用者の意志を確認しながら、利用者のペースで過ごせるよう、その人らしく生活できる支援がうかがえた。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立と材料の配食サービスを利用しているが、調理、味付け、盛りつけ、配膳、片付けなどは利用者が自由に参加でるように声かけをしている。また、食べに行きたい店などを話し合い、外食を楽しんだり、手作りおやつ作りなど、食べる楽しさを味わう機会を増やすよう努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入浴時間は、希望に合わせるように努めており、安心と安全の見守り入浴の支援をしている。また、入浴方法も友人と一緒に入浴するなど、利用者の楽しみが大きい様子がうかがえた。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の心身の状態や生活歴から、談話、料理、縫い物、習字などの得意分野で力を発揮できるよう支援している。また、興味あるものや利用者の能力を生かせるような仕事を頼み、感謝の言葉を添えて、楽しみながら役割も果たせるよう支援できている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出支援は、利用者の希望に応じて、散歩、買い物など話し合って決め気分転換やストレス解消、五感の刺激になるような支援をしている。月1回はドライブ、外食などを気候に合わせて話し合い柔軟に支援している。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関前は階段が迫り危ないので、家族の同意を得て鍵をしているが、反対側の、ケアハウスへ通ずる出入り口は、日中開放し自由に出入りできる支援ができている。利用者を見守りの中で、鍵の必要時は施錠時間と理由を記録簿に記載している。	○	一人ひとりの気持ちやその日の状況を細かく観察した見守りの中で、さらに、安心、安全な生活ができるよう、施錠しないで生活できる方法の検討を続けることが望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な防火・避難訓練では利用者と共に避難できる方法を身につけている。 また、毎月の行事の中に防火に関することが取り組めるかを計画中であり、さらに地域の方の訓練参加や協力を得られるよう働きかけの必要性を認識している。	○	運営推進会議で災害時の対策を具体的に課題として協議し、地域や近隣の方の協力が得られる方法や、地域の防災訓練などにも参加して相互の協力体制の中、事業所としてどのような役割が果たしていけるかの取り組みが望まれる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は利用者に合わせた調理が工夫され、利用者のペースで摂取できるように支援できている。食べる量や水分の摂取状況・排泄状況なども一日を通じて把握できており、看護師による健康状態の管理も工夫している。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用生活空間は穏やかな間接採光であり、木調風の佇まいは落ち着いている。不快な音や臭いもなく、季節感や生活感を感じられるよう花や小間物が可愛く置かれ、利用者の作品なども月の行事を思い出させる。調度品もよく、きんぎょも飼っており、ゆったりと安らぎ過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力のもとに、利用者の生活スタイルに合わせた好みや馴染みのものを置き、部屋の入り口は手作り暖簾で落ち着いた雰囲気で閉塞感も少なく、採光や調度品も居心地よく、ゆったり過ごせる工夫がされている。		